



News Letter

国際農業機械化研究会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 新農林社内 電話 03-3291-5718・3674

INTERNATIONAL FARM MECHANIZATION RESEARCH SERVICE

c/o SHINNORIN-SHA, 1-12-3 KANDA NISHIKI-CHO, CHIYODA-KU, TOKYO, ZIP101-0054 JAPAN., TEL. 03-3291-5718・3674

News Letter 通巻 475号

2014. 7. 10

発行責任者
岸田 義典

目次

2014

Vol. 6

- 欧州の施設園芸事情
(独) 農研機構生研センター
園芸工学研究部 坪田将吾 氏 2
- 国別輸出入 (2014年5月) 9
- WORLD NEWS 14
- EVENTS CALENDER 16

欧州の施設園芸事情

(独) 農研機構生研センター
園芸工学研究部 坪田将吾 氏

国際農業機械化研究会は、(株)新農林社と共催で、第 475 回海外農業機械事情報告会を平成 26 年 7 月 1 日 (火) に開催した。講師は、(独) 農研機構生研センター園芸工学研究部の坪田将吾氏。坪田氏は、3 月 4 日～11 日までの 8 日間、オランダとフランスを訪問。ワーゲニンゲン大学等、施設園芸分野で世界の最先端をいく研究を視察してきた。これらについて、「欧州の施設園芸事情」と題して、映像とともに報告した。

要旨は以下の通りである。

生研センターの坪田と申します。

今年の 3 月にオランダとフランスで、最新の施設園芸の市場調査をしてきましたので報告致します。全 8 日間の日程で、調査期間は 4 日間です。オランダでは主にワーゲニンゲン大学の視察、フランスではイチゴ生産施設の視察をしてきました。

オランダの農業・施設園芸

オランダはとても小さな国です。人口は 1640 万人。面積は約 415 万 ha で、そのうち農地が 190 万 ha です。これは日本の 1/4 程度の面積です。EU の他の国フランスやドイツと比べても農地面積が非常に小さいです。しかし、生産性では世界でトップクラスの国です。

オランダの農業の傾向として、ほぼ全ての品目で、

農家戸数が減少し、ここ 30 年で約半数くらいまで下がりました。具体的には、30 年前は 14 万～15 万戸数だったのが、現在は 7 万～8 万戸数になっています。ただし、大規模化は進んできています。施設園芸もこうした傾向が顕著で、経営面積が 2 ha 以上の農家が 30 年前の 7 倍となり、施設園芸全体の 30% 以上になっています。特にトマト施設が大規模化しており、6 ha 以上が全体の 6 割を占めます。

次なる特長としては、農産物輸出額が大きいこと。これは米国に次いで第 2 位になります。生産性が高いことでもあります。立地条件が良いので、輸入して加工貿易をしていることも理由のひとつです。

また、園芸の分野ではゴールドトライアングルと呼ばれていますが、産学官連携がスムーズに流れていて、補助金に依存しない産業として成り立っています。

こうしてオランダの施設園芸は世界をリードしています。

図 1 オランダ



図 2 ワーゲニンゲン大学



ワーゲニンゲン大学

オランダの農業教育機関の最高位であり、農業に関する様々な研究が行われています。今回は、世界をリードしトップクラスと言われている施設園芸部門を訪問してきました。拠点は 2 箇所あります。メインキャンパスがあり基礎的な研究を行なっ